静私幼だより

- 東海北陸地区私立幼稚園教育研究静岡大会
- 夏の研修報告
- 特集「園外保育と安全管理（その2）」日向崇紹
- 特集「今、改めて砂場を捉え直す（その3）」箕輪潤子
- コミュニティ（保育の窓）
- 乳幼児保育研修会
- もの想い（裾野聖母幼稚園・しらゆりこども園）
- 教員養成校訪問（常葉大学静岡草薙キャンパス）
- 健康随想/吉野友勝

こどもが
まんなか
PROJECT
只今全国展開中

NO.184
2018 12
Winter

平成30年度

東海北陸地区私立幼稚園教育研究 静岡大会

全体会

平成30年7月26日・27日、グランシップ大ホールに於いて、東海北陸地区私立幼稚園教育研究静岡大会が開催されました。

ウェルカム・ステージはジェネイス・ハープアンサンブルの演奏で始まりました。グランドハープ演奏者6人によるアンサンブルの繊細かつダイナミックな演奏に、会場全体、参加者2，300名の心が、さわやかな音色に包まれました。

開会式では、石井亮一様（全日本私立幼稚園連合会東海北陸地区会会長）、田中辰実様（全日本私立幼稚園連合会副会長）にご挨拶いただき、今大会の「子どもたちの今と未来の幸せを願って」というテーマに向けて講演や分科会を通じて2日間の研修がその確かな一歩になるよう研修成果を期待したいとのお言葉をいただきました。千葉一道理事長（静岡大会実行委員長）からは歓迎の挨拶がありました。

続いて全日本私立幼稚園連合会永年勤続者表彰、東海北陸地区会功労者表彰が行われました。

来賓の吉林章仁静岡県副知事、田辺信宏静岡市長よりご祝辞を頂戴し、前年度開催県の福井県私立幼稚園・認定こども園協会様への感謝状贈呈に続き、次年度開催県の富山県私立幼稚園・認定こども園協会様のご挨拶をいただいて、開会式は終了しました。

続いて奈須正裕氏（上智大学教授）をお迎えし、「幼小の接続と今後の幼児教育に求められる質」の演題で基調講演が行われました。

「工業社会から情報社会・AI時代になった。このような時代だからこそ、教育では感情を中心として考え、人間が機械になるのではなく、人間が人間になるようにすることが大切である」とのお話がありました。また、人生を成功に導く力として「学力」が重要であり、「学力は、覚えることを中心とした知識ではなく、思考力・意欲・社会スキルといった資質・能力のことである。勉強ができることは大事だが、それだけできても幸せな人生にはならない。コミュニケーション能力・倫理観・意欲・自己調整能力などの社会スキルが身についてこそ様々な問題解決を成し遂げ、幸せな人生となる。幼児期に小学校教育の前倒しはしないでほしい」とのお話があり、幼児教育の原点を見つめ直す機会になりました。

休憩を挟み、河邉貴子氏（聖心女子大学教授）と小西貴士氏（森の案内人・写真家）をお迎えし、「心をとめて 森を歩く ～スライドショー&トーク～」が行われました。小西氏は、本物に触れることを大切にし、森で生活をしながら、自然を通して子どもや大人に命の温かさを伝えています。「物事を良い悪いと決めてしまうような狭い視点ではなく、心の可動域を広げ、ありのままを受け入れる視点をもつことが大切である。そうすれば小さな出来事に目が止まるようになる」スライドショーの写真を見ながら河邉氏と小西氏のお話から、「何気ない一枚の写真にも様々な物語がある」ことがわかり、心と身体が一致しない子どもたちの本質や生命のやわらかさ・温かさを感じることができました。

会場中が温かな雰囲気に包まれ、全体会の幕を閉じました。

PTA大会

7月27日（金）に東海北陸地区私立幼稚園教育研究静岡大会ＰＴＡ大会が、静岡グランシップ中ホール「大地」にて開催されました。当日は、例年になく猛暑の中でしたが、約８５０人の園児と保護者が集いホールは満席となり熱気に包まれました。

コンサートに先立って行われた開会式にはお忙しい中、田中辰実様（全日本私立幼稚園連合会副会長）、石井亮一様（東海北陸地区会会長）、吉田敬岳様、上田雅裕様（東海北陸地区会顧問）、千葉一道理事長（静岡大会実行委員長）のご臨席をいただき、大会を盛り上げて下さいました。大会の初めに、石井亮一先生にご挨拶いただき、全日本私立幼稚園連合会との太い絆の下で、子どもを中心とした幼児教育の大切さと教師の資質の向上のため、日々活動を行い教員の研修に努めるなど、私立幼稚園を応援してくださる心強いメッセージを頂きました。ＰＴＡの皆様に、私立幼稚園が幼児教育にふさわしい場所である事を強く感じていただけたのではないかと思う開会式となりました。

開会式の後は、お待ちかねシンガーソングライターふくい舞さんによる記念コンサートが行われました。コンサートのテーマは「今日から明日に向かって～歌と共に～」でした。ふくい舞さんは、京都市西陣生まれで、アメリカオハイオ州に留学の経験を持ち、異言語・異文化・違う価値観を持つ人たちとの出会いを通し音楽の持つ不思議な魅力を感じて、ミュージシャンとなった方です。２００８年にＴＢＳドラマ「恋空」の主題歌「アイのうた」でデビュー、同年レコード大賞新人賞を受賞、２０１１年には、「いくたびの櫻」で日本有線大賞受賞、ゲームファイナルファンタジーⅩⅢのテーマソングや２０１５年ミラノ国際博覧会の日本館応援ソング「おいしいもの食べよう」などを歌うなど今大活躍中の実力派ミュージシャンです。

１曲目の「I'm here with you」は得意の英語で力強くスタートしました。会場は手拍子と共に一気に盛り上がりました。途中ドラえもんの「ひまわりの約束」やアナと雪の女王の「Let it go」を子どもたちと一緒に熱唱してくれました。舞さんの作る歌は、ご自身の経験をもとに、恋や人生に疲れた友達を励まそうと思って書いた歌や、東日本大震災で家族を失いながらも力強く生きている女性の気持ちと願いを込めて書いた歌など、優しい中に前を向いて歩こうとする力強さが感じられるものばかりでした。また、舞さんの歌声は力強くのびやかで、ギタリストＫＪさんのギターの多彩な音と相まってとても華やかでした。会場の子どもたちも「かっこいい～！」「凄い！」とすっかり舞さんに魅了されていました。最後は、自身への応援歌として作られた「Yeah Yeah Yeah」を会場のみんなと大熱唱して終わりました。

コンサートを通じ、歌は本当に心と心をつなぐものだと感じました。舞さんの歌には、その力があります。きっと、コンサートに参加してくれた皆さんに、心の絆と明日への力を与えてくれたと思います。本当に素敵なコンサートでした。

ＰＴＡ大会の開催にあたり、企画、準備、運営をしていただきましたＰＴＡ役員並びに教員の皆様ご苦労様でした。

夏の研修報告

初任者（宿泊）研修

平成30年8月20日・21日に掛川市のつま恋で、今年も静岡県私立幼稚園初任者宿泊研修が行われました。「みんなでスタートラインに立とう」というテーマのもと、本年度採用された初任者236名の教員が研修に参加しました。

初日は山岸弘子先生（NHK学園講師）の「おさえておきたい基本のマナー」の講義から始まりました。この講義では社会人として身につけておきたい態度や言葉遣い、マナー等を学びました。村田夕紀先生（造形教育研究所所長）「かいたりつくったりを楽しもう」では、色画用紙を使って、実際に製作を行う実技研修を行いました。大貫ななみ先生（蒲幼稚園園長）「いのち育むの活用について」では、これから幼児教育に携わる中で、忘れてはならない心構えを聞くことができました。

初日最後の荒巻太枝子先生（早出幼稚園園長）による「自然の見え方、感じ方」では、「ネイチャーゲーム」という活動を行いました。全員が外に出てグループごとに分かれ、五感を使い自然と触れ合う活動を体験しました。

二日目は、高橋功先生（元常葉大学准教授）「二学期に向けて」の講義から始まりました。「環境」と「保育」という二つの視点から、先生方に何が必要なのかを考える貴重な時間となりました。

研修最後の二木秀幸先生（静岡福祉大学准教授）「表現あそびをたのしもう！」は、歌や手遊びを通して園児と楽しむための実技研修でした。全員が体を動かしながら、歌ったり踊ったりという時間もあれば、グループで絵本を使った活動・表現を考える活動もあり、研修生同士が熱心に意見を出し合う姿がありました。

これからすぐに実践できる内容のことから、これから長い時間をかけて身に着けていくべきことまで幅広く学ぶことができた二日間でした。本年度も、研修に参加した先生にインタビューしました。

初任者インタビュー

島田北幼稚園　芹澤香帆

質問① 幼稚園・子ども園の先生になって良かったこと

子どもたちと一緒にいると毎日いろいろな発見があります。目をキラキラさせて笑顔で話をする姿や、大人では気づかないようなことに気づく姿を見ていると、とても幸せな気持ちになります。子どもって本当にかわいいな、先生になって良かったなと思います。

質問② 今一番努力していること

子どもたちそれぞれに良さがあり、それはふとした生活の中で見つけることができます。一学期初めのころは、幼稚園の生活に慣れることに精一杯でしたが、今は園児一人ひとりに目を向け、良いところを見つけ伸ばしていけるような声かけをするよう努力しています。

質問③ 今後の抱負

子どもたち一人ひとりが長所を伸ばし成長していくために、今何をしたいのかどう思っているのかなどの思いに寄り添い理解できる保育者になり、心から楽しいと思えるような環境づくりや支援をしていきたいです。

静岡平和幼稚園　松井茉由佳

質問① 幼稚園・子ども園の先生になって良かったこと

子どもの日々の成長を近くで感じられることです。毎日一緒にいる分、気が付きにくいこともありますが、泣かなくなった・できなかったことができるようになった・自分でやろうとして

いるなど、小さな成長を見ると、もっと自分も頑張ろうという気持ちになります。

質問② 今一番努力していること

子どもと丁寧にかかわることです。今のクラスは少人数のため、一人ひとりをよく見て、理解するよう心掛けています。その子に合った支援の仕方や声の掛け方を勉強中です。絵表示や保育室の環境など、子どもの目線で構成できるようにしていきたいです。

質問③ 今後の抱負

子どもも教師も楽しく過ごすこと！教師の楽しむ姿が子どもの「やってみたい」を刺激する一番の材料だと思っています。子どもの興味関心に常にアンテナを張り、「楽しそう！」「またやりたい！」という気持ちになれるような保育を展開していきたいです。

認定こども園さくら台幼稚園　谷村里美

質問① 幼稚園・子ども園の先生になって良かったこと

日々、子どもたちと生活していく中で、洋服がきれいにたためるようになったり、お友達との会話が上手になっていたりと、毎日成長していく姿を見られることです。また子どもたち自身ができたという喜びを感じ、笑顔を見せてくれた時、幼稚園の先生になって良かったと感じます。

質問② 今一番努力していること

子どもの目線に立ち、気持ちを理解することです。

一年目ということで、わからないことも多く、やらなければいけないことをこなすだけで精一杯ですが、子ども一人ひとりの性格や特徴に合わせた言葉掛けを心掛けています。

質問③ 今後の抱負

子どもたちに「幼稚園楽しい！」と思ってもらえるように、子どもたちと同じ目線に立ち、一緒に楽しみながら保育をしていきたいです。

また楽しい思い出が一つでも増えるよう、子どもたちがわくわくするような楽しい活動を考えていきたいです。

静岡平和幼稚園　本川　舞

質問① 幼稚園・子ども園の先生になって良かったこと

私が嬉しく思ったことは、この数ヶ月で少しずつ成長し、言葉が出始めてきた子が「まい先生」と私のことを呼んでくれたことです。子どもの成長を感じられること・子どもの笑顔に立ち会えることが、先生になって良かったことです。

質問② 今一番努力していること

子どもが楽しんで遊べる環境作りです。子どもの個人差で遊ぶものや遊び方も違う中、クラスの皆が楽しむことができる様に、子どもの雰囲気を見て違うおもちゃを出すなど子どもの様子に合わせた環境作りを努力しています。

質問③ 今後の抱負

担当している一歳児の子どもたちは、ほとんど言葉が喋れないので、子どもの様子を見て気持ちを理解して寄り添えるように、日々の保育で子どもをよく観察し、向き合っていきたいです。今後も一つ一つ仕事を覚え、保育教諭として成長していけるよう努力していきます。

特集2

園外保育と安全管理

◆◆◆リスク軽減のために◆◆◆

日向（ひゅうが） 崇紹（たかつぐ）
自然案内人
子どものための
自然体験アドバイザー

前号では出かける前の安全管理と園外保育の保育者の視点や考え方をお伝えしましたが、今回は、現場で必要な視点や実際に持ち出す必要性の高い救急用品とは何かを考え、それらの道具の目的や使用のポイント・その管理の方法についてお伝えしていきたいと思います。発生してしまった事故を最小限にするためには、遭遇するハチやヘビといった動植物の知識はもちろんのこと、その症状や怪我の判断だけではなく、道具に対しても正しい理解をすることが不可欠です。例えば、救急用品を使う頻度が少なく間違った使用方法が原因で処置が後手とならないため、定期的なトレーニングも必要になってくるでしょう。それが結果的に、子どもたちに過度な不安を感じさせない落ち着いた保育者の姿（対応）になっていくのです。

未然に防ぐ　～予測の視点～

一部の保育者だけで安全管理について学び実行することは簡単ではありません。と前号で述べましたが、わかりやすい事例を紹介します。保育者研修でKYT（危機予知トレーニング）を実施すると、多数の保育者の視点が必要だと再確認します。ここでいうトレーニングの内容とは、事故が起きる可能性がある状況が描かれたイラストや保育シーンに近い実際の現場の画像などのシートから、予見される事故とその事故につながる理由を発見できるようになるための問題解決訓練です。視点や感受性は人によって異なるために、複数人で同じ内容のシートを見ていてもそれぞれで問題を発見する場所や理由に違いがあり、人材育成や研修を通じて保育者相互に新しい視点の発見の場になっているのです。安全管理への意識を高めるため、結果事故を未然に防ぐために、現場のすべての保育者で予測ができる視野を広げることでより問題の発見・解決を速やかにできるようになります。天候や人数などの様々な現場の状況によって変わりますが、解決するために原因そのものの除去や、場合によって回避行動の判断をすることが必要となるでしょう。

事故発生　～悪化させないための応急処置～

ファーストエイドとはその名の通り緊急時の処置なので、少しでも確かな情報の収集と現場の状況を踏まえて総合的に判断し応急処置を行います。よって状況判断までの時間や処置に必要な時間が短くなるほどその処置の効果は高くなります。ですが、実際はというと室内と違って広い園外活動の場面では保育者数名ですべての園児を見守ることになり、事故発生の瞬間の状況が完全に把握できていないことが少なくないのではないでしょうか。そういった場面では、保育者の持ち合わせた知識と痕跡や園児の目撃情報など、少ない不確かな情報から判断し処置をしなくてはなりません。

しかし一方では、安全管理の講習会で動植物と救急用品の理解度を知る○×クイズを実施すると、答え合わせの場面でそれらについての誤解や言い伝えや思い込みの情報を耳にすることがあります。保育者の年齢や地域の自然度によって多少の違いを感じますが、概ね共通した傾向は感じます。中には毒を口で傷口から吸いだす行為等、信じ難いことですが未だにあるようです。医療機関への緊急搬送も想定に入れ、子どもの症状の悪化を最小限にとどめる応急的な処置のために、救護者である保育者の身を守るためにも、正しい知識の更新の機会が現場では求められるのではないのでしょうか。

必要な道具を考える

野外体験活動についての過去の研究では、誰もが当然のように思われますが転倒による打撲等の怪我の発生頻度が高いことが判明しています。よって想定される処置としての止血や冷却その後の固定までに必要な救急用品は、大抵の現場では準備されていることでしょう。また保育現場での基本的な救急用品は、異物を除去することや清潔に保つために用意されているものが多いと考えられます。しかし園外保育では、容易に除去することができない体内に入った有毒成分や、皮膚の表面の細かな毒毛に対処しなくてはならない場面が訪れる可能性が園内にいる時よりも高くなります。園外保育で必要な救急用品とは、そういった場面で速やかに登場し活躍することが望まれて存在しています。

代表的なものとして、ポイズンリムーバーが挙げられます。ポイズンリムーバーは体内の毒をスポイトのように刺された場所から体外へ吸い出す働きをする専用の道具です。ハチ・ヘビ類やニュースで話題となった外来生物のヒアリやセアカゴケグモ（※2018年10月1日静岡市で中学生を咬んだ可能性が高いという国内初の事故が発生）の毒の吸い出しに有効です。この場合は毒の成分に対して体内の過剰なアレルギー反応（アナフィラキシーショック症状）が起きる可能性を低くするため、理想として1分以内の処置を速やかに開始できるようポイズンリムーバーは持ち歩き収納しておかなくてはなりません。また医師の処方によってはエピペン（アドレナリン注射液自己注射キット製剤）を所持している園児がいた場合に、保育者が補助者として数分後には使用判断が迫られることもあります。こういった対処には定期的なトレーニングが欠かせないと断言します。ほかに緊急度が低い対応にはなりますが、皮膚に吸い付いたダニ類を除去するティックリムーバーという道具もあります。もちろん応急処置時には、人体からの出血や生物の有毒成分に救護者が触れないようラテックス製手袋を複数セットしておくことや、そのラテックス（ゴム）アレルギーについても個々の対応を準備しておかなければなりません。その他どこにでも手に入れられる感覚で緊急時に必要となるのが水です。傷口や毒液・毒毛の洗浄や熱中症対応のため、最低500㎖程度は携行しておくと対処にかかる時間がスムーズで良いでしょう。

また管理について、ポイズンリムーバーも該当しますが救急用品の中には部材がプラスチック製の道具があって、知らない間に経年劣化して破損しやすくなっていることがあります。薬品類は期限が明記されていることで更新されやすいのですが、個別の道具までチェックが至らないことが多いので試用点検することやチャック付きポリ袋等で密封し湿気や汚れから守ること、さらに圧迫されて変形・破損しない収納場所を考えておきましょう。

既に4年前ではありますが、焼津市の私立幼稚園協会では各園に園外保育で必要な救急用品を追加購入して、その道具の目的の解説やポイズンリムーバー等の道具を正しく使用するための実習を行い、保育者が救急バッグや救急箱を含めた救急用品の保管・収納まで学ぶ研修を実施しました。いずれにしても、避難訓練時の消火器の使い方の記憶と似ていますが、使わず忘れてしまいそうな知識や使用頻度の極端に低い道具について、短時間でも定期的にトレーニングを行う機会を設定しておくことが管理者に求められています。

さて次回からは、いよいよ園外で遭遇する危険だと考えられている具体的なハチ・ヘビなどの生き物について順次紹介していきたいと思います。その生態や知識を深めて必要な服装などに触れつつ、子どもたちにとってより安全であり自然が楽しいと感じられる園外保育を実践できるよう解説していきたいと思います。

自己紹介　日向崇紹

山梨県生まれ、藤枝市在住
自然案内人・子どものための自然体験アドバイザー

常葉大学教育学部卒業後、社会人経験後に復学し自然環境復元を学ぶ。日本環境教育学会員、静岡市環境学習指導員。また野外・災害時に特化した海外の救命法や小児専門救急救命法、日本山岳ガイドなどの資格取得の経験がある。現在は児童福祉施設の施設長として勤める傍ら、講師として小中学校の自然環境学習の支援、幼稚園・保育園児のための自然遊び・生き物探しや、保育者向けに園外活動の指導・危険な動植物・ケガの対処等の安全講座を開催している。

＊＊＊　広報委員会より　＊＊＊

前号（183号）の記事に執筆者が意図してない文言が入り込むという校正誤りがありました。

執筆者・日向崇紹様と読者の皆様に対して、ここに深くお詫びを申し上げます。

特集3

今、改めて砂場を捉え直す

砂場における「物とのかかわり」の育ち

武蔵野大学
教育学部准教授
箕輪 潤子

専門は幼児教育学、保育学。
著書に『遊びがもっと魅力的になる3・4・5歳児の言葉がけ《砂場編》若手保育者の指導力アップ』（明治図書）等。
現在、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構において研究委員として「砂場における幼児の育ち」をテーマに研究を実施している。

みなさんの園の砂場では、子どもたちがどのような試行錯誤や工夫をしたり、物の性質に気づいたりする姿が見られるでしょうか。新しい幼稚園教育要領にある「幼児教育で育てたい資質・能力」においては、子どもが気づいたことやわかったこと、できるようになったことを使って、工夫したり考えたり試行錯誤したりすること、そして粘り強く取り組むことなどが大事だと言われています。砂場でも、そのような子どもの姿をたくさん見ることができます。今回は、子どもたちが砂や道具とかかわり、様々な発見や工夫、試行錯誤をする姿をご紹介したいと思います。

まず3歳児ですが、特に入園してまもない4・5月には、同じことを何度も「繰り返す」という動きが多くみられます。容器に砂を入れる、入れた砂を出す、型抜きを何度も繰り返す、水を何度も運ぶ、水と混ざった砂を触る…。何度も同じ動きを繰り返している様子をよく見てみると、容器に砂を満たしていくことや、砂の感触を感じることを楽しんでいるとわかります。「ただ楽しいからする」というのは遊びの定義の一つですが、まさしく繰り返し砂に関わることが楽しいのでしょう。そして繰り返しのなかで、砂や水の性質や扱い方に気づいていくのだと思います。さらに動きを繰り返していくうちに、バケツに砂や水がいっぱいになったり、型抜きをしようとしてうまくいかなかったりというように、楽しんでいる動きはどこかで変化する時がやってきたときに、子どもは新たな動きを求められます。その新たな展開に対応していくことも、砂遊びのおもしろさなのかもしれません。

「お水こぼれちゃった」

アツシくんは、シャベルで砂をすくってボウルに入れている。繰り返しボウルに砂を入れていると、カイトくんがバケツを持ってアツシくんの側にきてしゃがみ、砂をバケツに入れ始めた。それを見て、アツシくんはカイトくんのバケツに砂を入れる。カイトくんは不思議そうに一瞬アツシくんを見るが、自分のペースで砂を入れていく。アツシくんはカイトくんのバケツが気になるようで、ボウルに砂を入れる手をとめて、カイトくんのバケツに砂を入れ始める。しばらくして、アツシくんは「おみず、おみずいれないの？」とカイトくんにきく。カイトくんは「おみずはあっち」と言い、水道の方を指す。何度かそのやりとりがされたあと、アツシくんとカイトくんは水を汲みに行き、砂の入ったバケツに水を入れる。水をいれるたびに水は増えていき、バケツの淵から溢れ始めた。それを見ると、道具箱からコップをもってきて、水が溢れているところにコップを置いた。

事例のアツシくんは、ボウルやバケツといった容器に砂を入れること、いっぱいになっていくのが楽しかったのではないかと思います。また、友達が自分とは違う容器をもってきたのを見て、そこに入れてみたくなった（もしくは

入れてあげたくなった）のかもしれません。

次に4歳児ですが、目的を持って遊ぶ姿が見られます。水を流すために砂を掘ろうとしたり容器に砂を満杯になるまで入れようとしたりと、自分なりのゴールや目的に向かっていく遊びが増えていきます。また、その目的に向かっていく過程でより「高い」山を作る・より「長い」川を作る・より「深い」穴を掘るなど、もっとこうしたいという思いが出てきます。そして、その思いがあるからこそ、より目的に沿った道具を選んだり道具の使い方を工夫したりという姿がでてきます。

「どれで運ぼうかな」

タクミくん、ユウマくん、アオトくんの3人は、大きな山を作ろうとスコップで砂を運んでいました。少しずつ山が大きくなってくると、タクミくんが「しろすなかけないと山が大きくならない」と言って、道具棚の後ろの〝白砂〟を取りにいきました。ユウマくん、アオトくんもタクミくんの後について行き、スコップで〝白砂〟を運び始めました。2、3往復するとタクミくんがバケツを持ってきて〝白砂〟を入れて運びます。しかし、バケツいっぱいに〝白砂〟を入れたために重くて運ぶのが大変そうです。一度運ぶと、すぐに別の道具（すくうと運ぶが一緒にできるもの）を探してきてそれで〝白砂〟を運びはじめました。

山に白砂をかけると山が固くなる（ようにみえる）ということを知っているからこそ、白砂をかけることをタクミくんは思いついています。そして白砂を棚の後ろに取りに行っていることからは、棚の後ろに白砂がたくさんあることを知っていることがわかります。それは、これまでの遊びの中での経験に基づいた知識だと言えるでしょう。また、砂を運ぶときに道具を変えていたのは、一度にできるだけたくさん運びたいという思いからです。運ぶ道具が大きくなればたくさんの量の砂を運ぶことができる一方で、たくさんの砂を運ぼうとするほど重くなります。身体で重さを感じながら、一度に運ぶことができる量と重さのバランスを試行錯誤していたことがわかります。

最後に5歳児です。5歳児になると目的に向かいより「高い」山を作る・より「長い」川を作る・より「深い」穴を掘るなどの「もっとこうしたい」思いを実現しようとするだけでなく、目的を達成するとより複雑なものを作ろうとしたり、うまくいかなかったときに原因を探ってから別の方法を試してみるなどする姿がみられます。また、道具も複数の道具を組み合わせてみたり、道具の使い方を本来の使い方とは少し異なる方法で使ってみたりと、試す行為が複雑になっていく様子がみられます。砂場での遊びの経験が積み重なることで、見通しが持ててくるからこそ、こうしてみたらどうだろう、こうなったからこうしてみようというような試行錯誤や工夫が見られるようになってくるのかもしれません。

「水を流そう」

子どもたちは、山に垂直に太いパイプを埋め、山の側面からパイプの下にトンネルがつながるように掘っていた。なかなかつながらず、道具を変えたり、掘る場所を交代したりしながら掘り進めている。しばらく掘ったあと、つながったかどうかを確かめるため、山に埋めたパイプに水を注いでみるがトンネルからは出てこない。カズキは山とパイプの境目あたりを少し見て水が出てきそうだと思ったのか、砂を軽くひっかくと水が飛び出し、子どもたちは「きゃー」と笑う。カズキは崩れてしまった山とパイプの境目に砂を押し付けて直す。直し終わったところにショウが水を汲んできてパイプに注ごうとする。カズキは水がまたパイプと山の境目から溢れてくると思ったのか、体を少し引いた。しかし、パイプに流した水は、山とパイプの境目からではなくトンネルから出てきて、ハヤトが掘っていた穴の近くまで流れていった。カズキは「流れた！」というと、ハヤトに「（トンネルと穴を）つなげていい？」と尋ねた。

子どもたちは、パイプとトンネルをつなげるために、道具を変えたり掘る場所を変えたりと試行錯誤しています。パイプに水を入れて、思ったところと違う場所からでてきてしまったのは、目的から見ると失敗かもしれませんが、思わぬところから水が出てくる面白さを感じている。大きな目的に向かいながらも、偶然の出来事にも面白さ・楽しさを見つけ、再度思わぬところから水が出てくるということを試そうとしている姿がみられます。5歳児の子どもにとっては、目的を達成することだけでなく、目的に向かう過程にある試行錯誤や工夫が楽しいのかもしれません。

今回は、砂場における「物とのかかわり」を見てきました。砂場の砂や水は変化する素材です。掘ったり積んだり容器に入れたりという過程で、砂や水の性質や道具の使い方などについて身体を通して知っていきます。また、知ったことを使って目的の達成に向けて工夫や試行錯誤することや、それを仲間と共有していくことそのものが楽しいと感じるのだと思います。砂場での子どもの声に耳を傾けていると「いっぱい入れたから重い」「あの木くらい大きな山にしたい」「すっごい深いよ」「ちょっと水入れすぎた」など、数量や科学的な芽がたくさん見えてきます。ときには一人で、ときには友達と一緒にそのような経験ができることが、学びの土台として積み重なっていくのではないかと思います。

まず自分が楽しむ！

原町幼稚園　水野 琴音

私は幼稚園児の頃、熱が出ても行きたがるほど幼稚園が大好きな場所でした。そして、もちろん幼稚園の先生も大好きで強い憧れを抱いていました。ずっと憧れていた幼稚園教諭になってあっという間に半年。高校の恩師から言われた「自分が楽しめば、周りも楽しい気持ちになるんだよ」という言葉を胸に保育を行なっていましたが、最初はなかなか上手くいきませんでした。どんな声掛けが子どもたちの気持ちを集中させるのか、どう保育の流れを作っていけば良いのか…。子どもたちの《やってみたい！》という気持ちをどう引き出せば良いのかと、自分が楽しむ余裕がなく、子どもたち一人ひとりと向き合えていなかったなと思います。

しかし、試行錯誤しながらも仕事を続けてきて、今は先輩の力を借りながら少しずつ子どもたちと深く関わり、子どもたち一人ひとりに響く言葉を選んで声を掛けることができるようになってきました。

初年度からクラス担任でしたのですごく緊張感もあり、無我夢中でやってきた一学期でしたが、担任になってみて、一人ひとりの好きなものや性格をより深く理解することができ、実習のときより的確に声掛けできること、その重要性も知りました。また、保育者の一言で子どもたちの活動に対するモチベーションも全く違うことを感じました。子どもたちのやる気スイッチを入れられるように、どんな言葉をかけたらよいか、どんな表情で向き合えばよいか、まだまだ学ぶことは沢山ありますので、日々学んでいきたいと思います。

二学期からは、幼稚園の行事・イベントも多く、また緊張感がふくらんできて気持ちに余裕が無くなる時もあるかもしれません。

そんなときは恩師の言葉を思い出し、まずは私自身が楽しむ気持ちと、「元気」「勇気」「笑顔」をモットーに！子どもたちと毎日楽しく過ごしていきたいです。私が大好きだったように、いま目の前にいる子どもたちにとっても幼稚園が大好きな場所になるように頑張ります！

楽しむ気持ちを大切に

静岡平和幼稚園　田島 美佳

小さい頃から子どもが大好きで、自然に幼稚園の先生になりたいという気持ちが芽生えていました。短大に通い幼稚園教諭への道を進み始め、待ちに待った幼稚園での実習。実習生として初めて子どもの前に立ち「せんせい」と呼ばれた時の、あの嬉しいような、くすぐったいような感覚を今でもよく覚えています。今思うと「絶対に幼稚園の先生になる！」と強く決心した瞬間だったと思います。夢がかない幼稚園教諭となり二十数年が経ちました。途中他の職業に転職もしましたが、その経験は「自分が本当にやりたいことは幼稚園教諭である」と再確認できた良い時間でもありました。

私が子どもと過ごすにあたって一番意識していることは「まず自分が楽しまなければ子どもは『楽しい』と感じない」ということです。幼稚園教諭になりたての頃、保育を進めることに一杯いっぱいであった時に、先輩方のクラスと自分のクラスの子の表情の違いに気付き、なぜ？と考え悩みました。しかし自分が得意で大好きなピアノを弾き歌を歌っている時、子どもが満面の笑顔で楽しんでいる姿をみて、普段の自分自身に笑顔がなかったことに気付いたのです。あれは苦手、これもダメ…と苦手意識を持っていたり、表情がこわばっていると、子どもはその気持ちを自然に読み取り楽しんでくれません。その時から自分が得意なことを活かし、苦手なことも隠さず一緒にやってみよう！やってみたらきっと楽しいよ！と、前向きに全てのことを楽しむお手本となるよう心がけてきました。苦手なことがあるということは、子どもにとっても先生を身近に感じ「こうやるといいんだよ」「一緒にチャレンジしようよ」と張り切って教えようとしてくれ、共に学び成長できる環境となっていると、前向きに考えられるようになりました。

楽しいという気持ちがあってこそ、たくさんの気付きや成長・育ち合いが生まれます。これからも子どもと共にたくさん笑い、色々なことに挑戦して、たくさん楽しいと感じ、子どもと共に育ちあっていきたいと思います。

私を支えているもの

みどり認定こども園　天野　恵

弟のお世話が大好きだったことがきっかけで目指した保育教諭への道。夢を叶えてから十一年が経ちます。大好きな子どもたちと過ごす楽しく幸せな時間と共に、悩んだり迷うこともたくさんありました。そんな私を支えてくれた一つは、園長先生をはじめとする先輩や同僚の先生たちです。単学級であった年長クラスを任せてもらった年。年長児を受け持ったことはあっても一人で学年を任されることは初めてでプレッシャーを日々感じていました。毎日自分の保育に自問自答の日々。そんな中「子どもたちから楽しいことが伝わるよ」「先生の気持ちが伝わってくるよ」と日々声を掛けてくれました。運動会の組体操では練習の時から園全体で応援をしてくれました。その時に、一人じゃないんだ、みんなで子どもたちを見守り育てているんだと改めて実感したことを鮮明に覚えています。温かな声掛けや雰囲気の中で子どもだけでなく私も成長させてもらい今に繋がっています。楽しいだけでなく学び続けるこの職業。今では後輩も増え私も指導する立場になりました。自分が成長させてもらったように、自信や楽しさに繋がるきっかけを作ってあげたいです。

もう一つは、子どもたちです。「恵先生の笑った顔が好き」と抱きついてきてくれる姿「みてみて！」と楽しさや嬉しさを一生懸命伝えてくる姿。そして頼りにしてくれる姿に、明日も頑張ろうと力をもらい続けています。私たちの援助で子どもたちの気持ちは変わっていきます。日々、個々に合った指導を考えることは大変でありとてもやりがいを感じています。出来たときの嬉しさを共有するだけでなく、そこに辿り着くまでの過程を大切に、心の根っこを育てていけたらと思います。

これから子どもたちが大きくなった時に、園生活が楽しかったなと思い出してもらえるよう日々成長し続けたいです。先生を見ると安心する、そんな保育教諭を目指していきたいと思います。

たくさんの出会いの中で

有度幼稚園　水田みずほ

短大を卒業し、幼稚園に勤めて21年が経ちました。小さい頃から憧れていたこの仕事を、こんなにも長い時間続けさせて頂いていることにとても感謝しています。

私がなぜ保育者を志したのかを振り返ると、保育園の時にお世話になった大好きな先生のようになりたいと思ったからです。しかし、ずっと憧れていた保育の世界にいざ入ってみると、楽しい時もたくさんありますが、悩むことも悔しい思いをすることもたくさんありました。その中で様々な子どもたちや保護者の方との出会いの中で、先輩の先生方に支えて頂き、少しずつ自分の保育の土台ができてきたように思います。

私自身、子どもたちと関わる時に変わらず信念としていることがあります。それは「一人ずつの心と正面から向かい合いたい」という思いです。色々な個性の子どもたちがいるので、対応の仕方はもちろん各々違いますが、どんな時も保育者としてという視点だけでなく、時にはお父さん・お母さんのように子どもの心に寄り添ってじっと待ち、時にはぶつかって向き合おうと心がけています。しかしそれは何年経験を積んでも上手くいくことばかりではなく、これで良いのかと試行錯誤することも多くあり、本当に悩む時もあります。それでもどこかで子どもの心や表情に変化が見られた時、笑顔を返してくれた時、良かったと思うと同時に子どもにとっても私自身にも次へ向かう力になるのだと感じます。まさにそれがこの仕事の魅力なのだと思います。

この頃、切に思うのは苦しい時も自分を支えている思いは、多くの方々との出会いの中で培われたものだと感じるのです。様々な方との出会いの中で、時に励まされ、悩み、私を一人の人間として育てて頂き、また一人の保育者に育てて頂いたのだと思います。もし、この出会いが無ければ私の人生はまた違っていたのかもしれません。そう考えると人と出会うことはとても大切であり、チャンスであると思います。だからこそ、子どもたちにも様々な人と出会うことの楽しさや嬉しさを味わって成長していってほしいと願っています。

小さい時の大好きな先生との出会いと、多くの子どもとの出会いがあったからこそ、私の人間としての土台、保育で大切にしたいと思うものができたと改めて感謝し、これからの日々も大切に過ごしていきたいと思います。

乳幼児保育研修会

10月11日14時より私学会館5階大会議室にて、「乳幼児に関する研修会」が開かれました。企画委員会主催の研修会で、昨年に続いて二度目の開催となります。講師は昨年同様、春山勝先生にお越しいただき二時間にわたり講義をしていただきました。

開講式では、はじめに千葉理事長より挨拶がありました。そのあと、企画委員長の吉田先生より趣旨説明があり、近年、幼稚園やこども園では共働き世帯が増え、2歳児保育や満3歳児保育のニーズがより高まっており、今回の研修会を企画した旨のお話がありました。

春山先生のご講義は最初に自己紹介から始まり、ご専門は発達社会学・児童福祉論でありながら、大学院での海事科学の研究や、蓮舫参議院議員の公設秘書、また民間の保育園長、保育運営会社の取締役、そして教員養成校の講師と様々な経歴のご紹介がありました。講義は、発達・運営・経営の三つの視点から行われ、2歳児の発達段階・保育所における2歳児の環境設定・2歳児クラスの運営上の課題や事故例・人事、労務における注意事項・2歳児の受け入れと保育所、幼稚園の将来展望と多岐にわたってお話をいただきました。

発達についての講義は、先生のご専門である発達社会学の側面からお話がありました。二時間の講義の半分以上の時間を発達についてお話しくださり、映像や、ピアジェ・フロイト・エリクソンといった著名な心理学者の学説も取り入れながら、言語の発達・認知の発達・遊びの発達・運動の発達・手技の発達・自我の発達・社会性の発達・生活の発達と様々な発達についての講義でした。幼稚園が今までみてきた3歳～5歳児と2歳児はかなり違うということを強調していて、映像で紹介されたストライダーの大会の様子を見てもそのことは一目瞭然でした。2歳児は喃語（二語文）から理解語（多語分）への発達段階にあり、そういった段階では自我の芽生えがあり、「話が通じた経験」「理解してもらった経験」をうれしいと感じる。例えば、けんかをしても子どもは解決を望んでいるわけではなく、先生がなぜそうなったのかを理解してくれれば満足する。つまり、そのために保育者は常に予測をして様子をよく観察しなければいけないということです。そういった経験を重ねることで手を出したり、かみついたりしなくなり、お話で解決しようとする子になるといったお話がありました。2歳児の言語発達のポイントは、子どもが能動的に「なんで？」と聞いてくるような環境設定・語彙を増やすために変化に富んだ環境をデザインしていくことだそうです。

また、生活の発達では睡眠や食事、排泄について話があり、睡眠については、午睡は必要か？という観点で詳しくお話がありました。幼稚園の2歳児は午睡していますか？保育園の2歳児はなぜ午睡するのですか？そもそもなぜ夜寝て昼起きているのですか？といった、とても興味をそそられるお話でした。食事や排泄については、先生のご意見として、好き嫌いは社会が作っている。また、野菜のヒエラルキーが低いといった説明もありました。そして保育の現場では、食事∨排泄という構図ができていて、排泄を汚いものとして価値を低めていることが多く、うんちバイバイしようね～など子どもが納得できるような声掛けが必要であるということでした。

運営については、安全環境・人的環境・物的環境・社会環境・地域環境・経済環境・時間環境といった2歳児の環境設定に対して様々な角度からお話をいただきました。その中で、まだ危ないことがわからない段階であるため、安全確保のためのフォローが必要なこと。人的には、子どもが先生への「憧れ」を抱く時期で、モデルとしての「先生」ということを教師が自覚する必要があること。物的には、発達段階に合わせ、思わず～したくなる・すごいと思う環境をつくること。地域では、同じコースの散歩道でも、日々の変化を楽しむ。また「遠足」は自分の住む地域とは「雰囲気の違うところに行く」など、普段の保育に生かせる具体的な内容でした。

2歳児クラスの課題として事故について、原因や様々な事例の紹介がありました。転倒・転落は「見えない構造」の予測ができないことが要因である。やけどは、危険予測能力の欠如。溺れるのは、巧緻性。交通事故は、社会的危険予知能力の未熟さ（ルールがわからない）。火遊びは、興味関心の広がり（火がつく→楽しい→その先の結果がわからない）。予期せぬ事故は自我の形成と、先生なりの原因の解説がありました。全国では一日に30人が救急搬送されていて特に1歳児・2歳児が多いとのことです。事故は様々な場所や状況で起きるため、今まで以上に保育者は気を配り、目を配る必要があります。ただ見るだけではなく、予測することも重要になってきます。

最後には、人事・労務における注意事項や2歳児受け入れと保育所・幼稚園の将来展望についてお話がありました。採用面接や求人方法・上司の立場での職場の円滑な運営についてなど、先生独自の視点からご意見をいただき講義は終了となりました。

私自身、先生の講義は二度目の受講でしたが、今回の研修会に参加し従来の私立幼稚園・こども園・保育園と経営方法が多様化している今こそ、それぞれの枠を超えての活発な意見交換や、お互いに理解し協力することにより、乳幼児に対しての理解を深めていけるのではないかと感じました。そのことが幼稚園・こども園・保育園に通う全ての子どもたちの、健やかな成長と幸せにつながっていくものと思います。

子どもたちと共に

裾野聖母幼稚園母の会会長
杉本智子

我が家には、小学二年生の長男と年長の次男がいます。

長男が四才の頃に、「こうちゃん（次男）と上からどのママの子どもになろうか探していて、二人でママの子どもになろうって決めたんだよ」と話をしてくれたことがありました。隣で次男も「うんうん、そうそう」と頷いていました。二人があまりにも仲良しだったのは、生まれる前から一緒にいたからなのねと、仲の良さに納得でき、心温まる出来事となりました。

次男を妊娠中は、パパ以上にお腹の中の赤ちゃんを大切にしてくれて私の腰やお腹をさすってくれたり、お散歩もゆっくり歩いてくれたりして頼もしかったことを覚えています。

次男の誕生と共に立派なお兄ちゃんの誕生でした。（そのずっと前から立派なお兄ちゃんでしたが…）

次男がお昼寝を始めると音の出るおもちゃのスイッチを全てオフにしたり、次男が私に叱られそうになると慌てて次男の所へ行き手を繋いで隣にいてあげたり、ぎゅっと抱っこしてあげたり、それ以前に私に叱られないように次男を一生懸命フォローしています。次男は、長男と二人で遊んでいる時が一番声をあげて笑い楽しそうです。お兄ちゃんが大好きです。

この夏休みに長男がサッカーチーム企画のキャンプに行き、家族にお土産のゼリーを買ってきてくれました。早速ゼリーをみんなで「おいしいね」と言いながら食べていると、長男が嬉しそうに「ありがとう！」と言いました。

子どもは本当に純粋で、何にでも一生懸命ですね。日々、気付かされること・感動、そして見習う所が沢山です。母親として未熟な私は悩み落ち込むことが多々あります。でも、全て母親になれたからできる経験だと思うと幸せに感じ頑張ることができます。不妊治療を経て今があるので尚更なのかもしれません。これからもご縁に感謝しながら、家族の笑顔の為に共に、一日一日を大切にし成長していけたらと思います。

愛情をもって

しらゆりこども園ＰＴＡ会長
永田晴康

次女が年長の今年、園に通う子どもたちの成長を間近で感じ、自分自身も成長できる様、昨年の副会長職から会長という大役を拝命し、ＰＴＡ活動に携わらせていただいております。

結婚して10年たった時、待望の長女を授かりました。その3年後には次女も誕生し、毎日娘たちと可能な限り時間を共にしております。現在長女は小学校三年生となり、妹と毎日けんか三昧。子育てに関しては夫婦でよく相談してはいるものの、本当に正解なのかと自問自答の日々です。親として自分たちの考えに固執することなく、先生方や他の保護者の方々の意見を参考に、子どもの成長にとって最善を尽くすことがよきものと信じ毎日奮闘しております。

こども園にはＰＴＡ役員会の他に、娘の迎えや引き渡し訓練などで出向くことが多々あります。そんな中、園児の多くが私の顔を覚えていてくれることに嬉しさを感じます。娘と歳が違うクラスの子であっても、笑顔で私に近づき話しかけてくれます。そんな子どもたちの人懐こい笑顔を見ていると、「役員を引き受けて良かった。このこども園で楽しい思い出を沢山創る助力を担いたい」という気持ちでいっぱいになります。実際長女も、このこども園での生活の中で色んな事を経験させていただき、小学校に入った今でも役立っていることは沢山あるようです。

朝夕やっと涼しさを感じる季節になってきました。

今年は、近年にない早期台風の多量発生と集中豪雨、そして記録的な猛暑により全国各地に甚大な被害をもたらしています。園の行事においても毎年夏休みに行う「こども園創立記念の夕涼み会」が中止になり、年長行事の「観音山お泊り保育」も接近する台風の影響で急遽日帰りとなってしまいました。子どもたちの成長に欠かせない貴重な体験する場が　突然の天候の悪影響で削がれることは残念でなりませんが、今年度の園行事も運動会・ゆめの会等とまだまだたくさんあります。子どもたちが園生活を楽しく過ごせる様、先生方にご協力いただき、ＰＴＡ役員として子どもたちに愛情をもって楽しんで活動していきたいと思います。

教員養成校訪問

学校法人 常葉大学・常葉大学短期大学部

平成30年10月2日（火）静岡県が台風24号の影響で大停電の中、静岡市駿河区弥生町の常葉大学静岡草薙キャンパスに広報委員5名で訪問しました。当日は保育学部より5名（4年生と3年生）、短期大学部保育科より5名（2年生と1年生）の学生と先生方4名にお話を聞くことができました。

平成30年度より新しく開講した常葉大学静岡草薙キャンパスは、富士キャンパス及び瀬名キャンパスと短期大学部の一部の学部が集まり、総合大学としてスタートしています。

国道1号線沿いで、JR草薙駅より徒歩5分の好立地に新設された大学は、外観は森をイメージさせるすてきな校舎と広いグラウンドを備えた魅力いっぱいのキャンパスになっており、多くの学生が生き生きと活動していました。

初めに学内を案内して頂きましたが、開放的なフロアーと仕切りのない体育館が自然につながる作りになっているなど、工夫がたくさん感じられました。また、同キャンパスに新設された「幼児教育支援センター」は、大学生と短大生が垣根なく実習・就職の指導が受けられるようになっており、多くの学生が訪れて資料に目を通していました。特に県内の幼稚園・こども園・保育所の案内や求人票を目立つところに配置してくださっているのが印象的でした。

冒頭、保育学部長の古橋先生よりご挨拶いただき、続いて短大保育科長の鈴木先生より、常葉大学では座学ばかりでなく実習を特に重視し、体験を通して問題解決に向けた力や達成感・満足感を味わうことを大切にしているというお話がありました。

次に学生の皆さんからお話を聞きました。まず、幼稚園・こども園・保育所の違いをどのように捉え理解しているのか、実習を通しそれぞれにどのような印象を持ったのかを質問してみました。その中で10人中ほとんどの学生が、「保育園は子どもを預かっている時間が長いためか、ゆったりとしていてのびのびしている」「先生方が子ども一人ひとりとゆったり関っている」「個々に寄り添いながら保育している」「子どもが一人ひとりゆっくり遊びこんでいる」「先生方は、子どもが飽きないように遊びを工夫している」などの答えが聞かれました。対して幼稚園は「教育色が強い」「それぞれの幼稚園によって独自性があり体育や英語などを積極的に取り入れている」「短い時間に活動が詰まっている」「行事が多く生活というより小学校の勉強のスタートに向けたステップのように感じた」と対照的な印象があることがわかりました。こども園は、まだその特徴がはっきりわからず「両方が合わさったものかな」と大きく捉えているようでした。この話から、短い実習期間では表面のみを捉えてしまう実情があるのだなという印象を受け、幼児教育の良さをより深く感じてもらうためには、私たち園側も更に一層の努力が必要なのではないかと考えさせられました。

次に、勉強をしていく間に自分がこの仕事に向いているのかと迷うこと、悩む時はあるかと質問しました。集まってくれた学生の多くは、中学生や高校生の早い段階で幼児教育に進みたいと心を決めており、ピアノなどの実技の学習の中で壁にぶつかり挫折しそうな時はあるが、勉強や実習を通して自分が向いていないのではと悩むことはほとんどないと答えていました。

就職する段階で1番重要視するポイントは何か、という質問に対しては「園見学や実習の時に温かく迎え入れてくれた」「現場の先生方の雰囲気が良い所はこの仲間に入りたいと感じた」「卒園生が戻って就職している所は現場の雰囲気も良いと思う」「実習中、怪我をして泣いてしまった子どもに対しての先生の関りが温かかった」など現場の人間関係を最大に重視しているのだという印象を強く感じました。

一方で男子の学生からは「一生の仕事と考えているため、将来的に家族を持ち養うことを考えると雇用条件、特に金銭面の条件が気になります」と率直に答えてくれました。確かに、男性保育士のニーズが高まる時代において、重要視していく必要があるだろうと思いました。

その他の質問の中で、保育学部の学生はゼミの中で、実際に子育て中の保護者や子どもを対象に「保育のひろば」を企画・運営したり、子どもを取り巻く環境についてテーマを絞り調査し、行政にフィードバックしていく活動をしており、その中でコミュニケーション力がつき社会人としての人間関係の基礎を学べていると感じているようでした。短大保育科の学生も限られた時間の中で集中的に学び、1年次の早い段階から実習に出ていることから、社会性の大切さを感じ取っているようでした。また、ラインやツイッターなどのSNSが身近に普及している社会の中で、個人情報の管理の重要性や一社会人として大切な連絡は、きちんと電話やお会いして伝えるべきであるといったマナーをしっかり理解していることもわかりました。

学生から実習を通し「子どもが好きというだけでは、勤まらない」という現実や「先生は子どもと遊ぶだけでなく、幅広い知識と技量が求められると分かり不安もあるが、小さいころからの夢をかなえたい」などと嬉しそうに話してくれる様子を見て、若い世代の皆さんも真剣に自分の人生を考えているのだと思いました。学生の思いを大切にしてあげたいと感じるとともに、今後幼児教育の世界に優秀な人材がたくさん輩出されてくると希望が持てました。お忙しい中、お話を聞かせてくださった学生さんと、この場を設けてくださった大学側に感謝を申し上げ終了となりました。

健康随想 4

食物こぼれ話（その1）

上野幼稚園　吉野友勝

食事のとき私達があまり意識することもなく、習慣化・日常化しているものにも大事な意味があります。

香辛料や薬味の意味

刺身にはなぜ山葵（わさび）と大根がつくのでしょう。山葵や大根は、蛋白質と脂質の影響を和らげ体への吸収を穏やかにしてくれます。日本は海に囲まれ魚が豊富です。昔から大根は魚の脂質を和らげるために料理に使われ、最も古い野菜と言われます。テンプラの天汁（てんつゆ）に大根おろしがつくのもそのためです。油のしつこさを和らげています。山葵や胡椒等の香辛料は蛋白質吸収を穏やかにし、殺菌や肉類の臭いを消す働きがあります。肉食の多いヨーロッパでは、大航海時代（15C～17C）には東洋の胡椒を金銀と交換したそうです。日本では蕎麦に山葵がつきますが、蕎麦は蛋白質が多いからです。蕎麦ほどでないうどんや豆腐には生姜のすりおろしがつきます。魚も海流の勢いの強い遠洋の魚は、筋肉が発達し蛋白質も多いので山葵、近海の魚には生姜のすりおろし、沿岸の魚には茗荷（みょうが）が香辛料としてつき、いずれも大根は欠かせません。

フライ物にはレモン等の柑橘類が添えられます。搾って汁をかけると、油分を和らげてくれるからです。

お寿司に添えられる熊笹とガリと呼ばれる生姜は、保存効果（熊笹）と殺菌効果（生姜）のためです。冷蔵庫がなかった時代の先人の知恵です。和食は繊細です。見た目や食材の特色を考えた細かな配慮があり、その調理は五味（酸味・苦味・甘味・辛味・うまみ）・五色（緑・赤・黄・白・黒）・五調理法（生のまま・煮込む・焼く・油で揚げる・蒸す）を基本にしています。Washokuはユネスコの世界無形文化遺産です。

座高測定の理由

これまで体位測定項目に座高がありましたが、数年前になくなりました。なぜ？調べると面白いことがわかりました。日本は明治維新後、富国強兵・殖産興業で近代化を急ぎ、生活様式・食生活が変化していく中で、明治27年日清戦争、戦後処理の内容で帝政ロシアとの間で緊張が高まり、明治37年日露戦争が起きました。外国の地に軍隊を派遣するので身体検査をしていると、座高の高い兵は外国の地で下痢や腹痛になる割合が低いと気がつき、座高測定が一般化したようです。余談ですが、その頃にロシア征服の意味を込めて「征露丸」という胃腸薬も生まれたそうです。今は勿論「征」の字が異なります。

日本人は、お米を主に季節の野菜や海藻類と少量の魚を食べる生活を弥生時代の頃から続けてきました。繊維質が多く消化に時間がかかるので腸が長くなり、座高の高い胴長体形になりました。中緯度地方は四季があり作物が育つので、同様の食生活・同様の体形になりました。ヨーロッパのような高緯度は気温が低く、豊富に作物は育たないので、その環境で生きる動物やその乳や加工品を食べるようになります。それらは腐りやすいので、早く排泄する必要性から腸が短くなりました。日本人と欧米人は腸の長さは約1m違うと言われます。腸の長い民族が欧米型の食事が多いと負荷が多く、健康問題に関係してきます。思い当る節はありませんか。

チョコレートの話

高校の英語教科書から拾いました。チョコレートはカカオ豆から作られますが、その歴史は中央アメリカ古代文明のマヤと、その後のアステカ文明にさかのぼります。始まりはカカオ豆を粉にし、水・トウガラシ・トウモロコシ粉等を混ぜた苦い飲物でした。聖なる飲物と考え、薬としても利用していました。アステカ時代になると、カカオ豆は高価だったので主に支配階級によって飲まれ、お金としても使われていました。16Cにスペイン人がやって来ると、彼らは苦味に閉口し砂糖を加えました。これがヨーロッパに紹介され人気になり、19Cにオランダでチョコレート粉末製造技術が発明され、更にイギリスの会社が棒や板状にすることに成功し、大量生産が可能となって多くの人達が食べられるようになりました。しかし、それはまた大きな問題も生みました。スペインやヨーロッパ諸国がラテンアメリカやアフリカにカカオ豆大農場を開き、原住民を奴隷・低賃金労働者として利用し始めました。今でもその名残の問題があり、チョコレートを楽しむ国々と生産地との貧富の差です。低賃金のため子どもも働き、幼稚園・学校へ満足に通えません。豊かな国の人達がほんの少し高く買えば解決します。

そのような問題に取り組む運動を、フェアトレード（公正な取引）と言います。協賛企業の商品にはそのマークが付いています。チョコレートを楽しむとき少しだけ気にかけたいですね。

静私幼だより
NO.184
2018.12.15

ナイスショット

ジャック・オー・ランタンを作るぞ!

秋の宝物探し
帽子付きのどんぐり発見!

おみこしわっしょい!!
おみこしわっしょい!!

でぶいもちゃん
ちびいもちゃん
おいしいよ!

おおきくなったかな?

おはなが咲いた?!

わぁ〜　落ち葉がいっぱい!

大きな綿菓子!「くもみた〜い♪」

「火の用心!火遊びは絶対にしません!!」
町の人たちに呼びかけました

ボールのベッドはきもちいいね!

【編集後記】　秋は運動会・バス遠足・音楽会などの行事が多く、集団の中で子ども同士の関わり合いがたくさん生まれ、活動の幅が一段と広がって仲間と一緒に色々なことにチャレンジする姿、目標を持って取り組む姿があちこちで見られます。

さわやかな空気を感じながら、豊かな気分になる実りの秋を過ごすうちに、最近では昼夜の気温の変化が激しく、天気も不安定で「秋深し」より「冬近し」を実感します。2学期は、子どもたちの内面が著しく発達する時期です。五感が整う幼児期に、今しか出来ない体験をたくさんさせて、これからの育ちに期待が膨らむ充実した時間を過ごせるよう見守っていきたいと思います。

広報副委員長／島田北幼稚園　小塩倫代

（表紙写真／春日こども園）

発行人／千葉　一道
編集人／杉山　京子
広報委員会

発行所／(一社)静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853
静岡市葵区追手町9番26号
静岡県私学会館内
TEL.054(254)6820・FAX.(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/
E mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷／(株)三創　レイアウト・イラスト　村松麗子

このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。